

第 16 回音楽センター柴崎アコーディオン教室発表会
2022 年 6 月 19 日（日）開演：13：30 会場：新宿区立角筈区民ホール

受付で指の消毒をしてプログラムを受け取り入場しました。演奏者はマスクを外して演奏するけれど、客席ではマスク着用をお願いがありました。

プログラムは途中休憩を挟み第一部と第二部に分かれていて、第一部の最初に 1 組、第二部に二組デュオがある他全て独奏です。司会による紹介は、演奏者名と演奏曲の紹介のみのシンプルな形で進行していました。

第一部最初の演奏は、(若松紀/渡部由美子) さんによるデュオで演奏曲は「Comastor」

朝靄の中に立つような静かな情景から始まる。そして何か思い出したように忙しく動き回るようなコードの繰り返しにメロディーが乗った演奏で重奏が作る厚みを感じました。

2 番目は中村苑子さん、演奏曲は「Les Amants d' un Jour」(ある日の恋人たち) 若い方でボタンアコで演奏されていました。

3 番目は木戸悠美子さん、演奏曲は「LE BAL DE LA MARINE」波が引いては押し寄せるような感じの曲で、暗譜で演奏しました。

4 番目は山道由利子さん、演奏曲は「パリのいたずらっこ」最初堅さを感じたけれど、ベースソロの入った編曲で次第になめらかな演奏になりました。

5 番目は鈴木みゆきさん、演奏曲は「GERALDINE VALSE」とても姿勢が良い、楽器の構え方のお手本のように楽器が安定してできてきれいでした。途中スイッチを L に切り替えた編曲は面白い。

6 番目は今井利幸さん、演奏曲は「小雪降る夜の想い出」難しい曲ではないけれど、スイッチの切り替えで音色を変える工夫をされていた。曲名に想い出とあるように、どこか郷愁を帯びた曲です。年齢は筆者よりも上ではないかと思うけれど、休憩時間に話をしたら、「コロナ禍の中で On-line レッソンの時期もあったけれどやめる気にはならない」と答えていました。

7 番目は除村裕さん、演奏曲は「IRENE」夢の中にいるような感じの演奏でした。

8 番目は小暮町子さん、演奏曲は「ミュゼットの女王」軽いリズムの刻みで、小川の流れの中で小魚が泳いでいるような素敵な演奏です。

9 番目は佐藤聖子さん、演奏曲は「プレリュード『スカンジナビア組曲』より」2 分ちよつとの比較的短い曲でしたが、オルガンの演奏を聴いているようです。ゆっくり流れていく雲を見ているような感じです。

10 番目は水野美緒さん、演奏曲は「ハナミズキ」暗譜で立奏です。身体を上手に使っていて、曲の終わり方が素敵です。

全員マイク無しの生演奏だけれど会場いっぱいしっかり届いていました。

11 番目はお休みとのアナウンスで、次は 12 番の鈴木節子さん、演奏曲は「ラストワルツ」この方も暗譜です。初めて踊ったときのことを思い出しているような優しい演奏です。

13 番目は高橋絢子さん、演奏曲は「ミステリアス」姿勢がきれいですね、曲もよく流れていて素敵です。

14 番目は島田彩乃さん、演奏曲は「Amazon」ボタンアコで、演奏しているときの柔らかい表情がすてき。メロディーもベースもお互いに乗りあって同時進行のすてきな演奏です。

15 番目は第一部の最後で山中智子さん、演奏曲は「メリーウィドウ・セレクション」度々出てくるベースソロ、スラー、スタッカート、いろいろな奏法がちりばめられた曲で、最後は次第にテンポを上げて力強く終わります。すてきです。

・・・10 分休憩・・・

第二部の最初は 16 番目で小林のりこさん、演奏曲は「5 つのクラシック風の曲」より前奏曲、ソナチネ “もしも、モーツァルトがアコーディオンを弾いたなら”、バッハを探して) の 3 曲。とても安定した演奏です。

印象に残っているのは中盤に出てくる鳥の

さえずりを思わせる部分、それと後半のベローシェイクがきれいです。フリーベースの深みのある演奏です。

続く 17 番目は渡辺杏音さん、演奏曲は（若い王子と王女「シェヘラザード」より）演奏者はおいくつなのでしょうか、習い始めて間もない様子でした。この後 18 番でお母さまと二重奏します。

18 番目は（伊東直美/渡辺杏音）さんの二重奏で演奏曲は「Milaia」（ウクライナ民謡）お母様のベースに乗ってメロディーを重ねた三拍子の曲です。

19 番目は鶴見篤子さん、演奏曲は「ADAGIO」最初から最後まで終始重音で進行する演奏です。

20 番目は柏原智章さん、演奏曲は「Anizette」初めて聴く曲です。パリの街の中をウキウキしながら歩いている、そんな軽快なテンポの曲です。

21 番目は鈴木麻紗子さん、演奏曲は「Tico-tico no fuba」真っ赤なドレスにボタンアコで身体を上手に使っていて、演奏している本人が一番楽しんでいるように見えました。

22 番目は石垣真里子さん、演奏曲は「PRELUDE」同じくボタンアコです。服装は黒系で統一、フリーベースなのでしょうかきれいな響きです。

23 番目は石田緑さん、演奏曲は「涙のパヴァーヌ」教会音楽のような、また、子守歌を聴いているような印象の曲です。

24 番目は栗原美和さん、演奏曲は「Hole in the Wall」オーボエのような音色で森の中をさまよっている、そんな不思議な曲です。

25 番目は渡部由美子さん、演奏曲は「ポーランドのルネサンス音楽より」ヴィラネッラ I, II ポーランドのダンス I, II。初めて聴くけれど、鉛の兵隊が登場しそう、凱進行進曲のような感じの曲です。

26 番目は伊東直美さん、演奏曲は「ベルベット・ワルツ」通常よりオクターブ上の音域を使った演奏で高音域のきれいな曲です。

27 番目は千田康司さん、演奏曲は

「ACCORDINIZIN' ON THE SWANEE」スワニー河をジャズ風にアレンジした変奏曲です。演奏後伺ったら「ジャズが好きなんです」とおっしゃっていました。

28 番目は関恵美さん、演奏曲は「アディオス・ノニーノ」皆さんよくご存じのピアソラの曲です。身体を上手に使っていてパンチの効いたすてきな演奏です。

29 番目は本日の最後の演奏になります。高橋絢子さんと小林のり子さんによりデュオ、演奏曲は（Waltz 劇音楽「仮面舞踏会」より）ステップを刻むしっかりした力強いベースの音が印象に残ります。

帰りの足取りは三拍子になっていたかも知れません。楽しい 1 日でした。

最後に柴崎和圭先生の挨拶・・・「皆さん長い時間ありがとうございました。アコーディオンっていうのは今日聴いていてもわかるように、ワルツあり、タンゴあり、シャンソンあり、クラシックあり、民族音楽ありいろんな音楽に使える楽しい楽器だと思って聴いていました。プログラムには第 16 回と書いてあるけれども、実は音楽センターの講師をやるようになってしばらくは発表会を開いていなかったので発表会は 16 回だけれど、教室は 20 周年になります。子どもだった生徒が大人になったり、親子で演奏される方もおります。全員で楽しめるのもアコーディオンの良いところだと感じています。」

「今日のように皆さんの応援があるとさらに頑張れる。1 年練習して来年もまたみなさんとアコーディオンの場を楽しみたいと思います。」と挨拶されていました。

この後、舞台上で出場者の記念写真を撮られて終了しました。（写真：主催者より提供）

（記：乙津）



JAPC アコーディオン夏祭り 2022

2022 年 7 月 9 日(土)12:00 開演(換気休憩 5 回含む約 4 時間)

会場: 日暮里サニーホール(JR・京成「日暮里」駅より徒歩 2 分)

「帰ってきた夏祭り」と銘打って 3 年ぶりとなる生のアコーディオン演奏会が開催されました。以下、プログラムに載っている主催者挨拶より一部を転記。

JAPC 夏祭りを 3 年ぶりに開催でき嬉しい限りです。繊細なアコーディオンの音色を直に楽しむことができるのは、やはり会場での生演奏ならではの感じています。全国から 28 組の演奏者、また過去最年少となるゲスト演奏者が駆けつけてくれました。きっとジャンルやスタイルを問はない素敵な演奏で暑さもコロナも吹き飛ばしてくれると信じています。最後まで、第 10 回新生 JAPC 夏祭り 2022 をお楽しみください。

(JAPC 代表: 小川正浩)

プログラムは 6 組ほどずつのグループをつくり、それぞれの間に 10 分～15 分の換気休憩を入れた構成でした。入り口には氏名と連絡先の記入カードが置かれていて、記入したカードを持って受付へ進みます。座席には 1 つ置きに「この席はご遠慮下さい」の紙が付けられていて 1 席おきに座りました。

注: 演奏者の所属は以下の略称で記載。

・音楽センターは(音セ)、・イケベアコーディオン教室は(イケベ)、・クラシック・アコーディオン・ラボは(クラシック)、・トンボアコーディオン教室は(トンボ)、・鶴見アコーディオンクラブは(鶴見アコ)、・東京アコーディオン愛好会は(東京アコ愛好会)、・東京アコーディオン研究会は(東京アコ研)

最初の演奏者は、4 年前(第 30 回)の関東アコにサクソ奏者とアンサンブルの部に出場し、入賞第 1 位になられたアコーディオン奏者阿部一真さん(檜山教室)です。演奏曲は「A French Touch」。姿勢が安定しているからなのか、音まできれいだなあと聴きました。

2 番目は本田千香さん(音セ・大田教室)、この方は昨年(第 33 回)の関東アコ独奏・上級の部で入賞第 3 位になられています。演奏曲は「Reine de Musette」。ミュゼットの感じが会場に広がります。赤いリボンが似合います。最初のグループは全員独奏です。

3 番目は吉川栞さん(檜山教室)、演奏曲は「PAPILLON NOIRS」。初めて聴く曲です。静かな曲だけれど、何かを一所懸命思い出そうとしているかのような曲です。

4 番目は伊藤悠さん(パティオはなおか)所属で曲は「Jolly Caballero」。

5 番目は狩俣真里恵さん(イケベ・千葉コース)、演奏曲は「哀愁のアコーディオン」。スイッチの切り替えで変化を付けた素敵な演奏です。

6 番目は最初のグループの最後で演奏者は森美千子さん(クラシック)所属で福岡から参加です。演奏曲は「アメリのワルツ」。しっとりとした演奏です。

・・・換気休憩 10 分・・・

二つ目のグループの最初(プログラム番号 7)は、鈴木まさひろさん(イケベ・千葉コース)、力強くスタイリッシュな曲を選んだとセルダの伝説から「迷いの森」と「カッシーワのテーマ」を演奏。ゲームを見ていない筆者にはわかりづらいけれども、蛇腹を大きく使って森の中の様子を表現していたのかなと思って聴いた。

8 番は関承浩さん(イケベ・千葉コース)、出身は香港で、2020 年に日本国籍を取得されたと紹介。また、小学生からピアノを始め、教会のパイプオルガンの演奏活動をしながらかアコーディオンのソロやパイプオルガンとのコラボに挑戦されているとコメント。演奏曲は「Song for Joss」。最後の終わりが印象に残ります。

9 番目は大塚銀河さん(トンボ・松本教室)、8 番目の方同様初参加です。演奏曲は「Indifference」。フレーズのつながりがとてもきれいです。

10 番目は伊藤久義さん(鶴見アコ)、演奏曲は「Si Bheag Si Mhor」。小さな妖精と大きな妖精という意味だそうです。力強く弾く演奏ではないけれども、アコーディオンが好きでいろいろな演奏会でお会いするので練習もされているのでしょう。聴くごとに進歩していると思えます。

11 番目は一風変わった、ミニアコーディオンで弾き語りのサジヒロミさん(フリー)です。一級建築士、イラストレーター、絵本も出版、自作パペットです。演奏曲は「オリジナル曲メドレー」。アコーディオンの夢が広がる演奏です。

このグループの最後(12 番)は歌恋(かれん)さん(イケベ・千葉コース)。演奏曲は「Tango pour Claude」蛇腹を縦横に使った素敵な演奏です。赤いドレスが似合います。

・・・15 分の換気休憩・・・

3 つ目のグループの最初は、2 年前に結成されたという Funky 手風琴による二重奏。曲は「キャラバン」の到着」演奏者による編曲です。筆者はこの曲を知らなかったのか、どこで使われているのか調べてみました。フランス映画「ロシュフォールの恋人たち」、年に 1 度のお祭りでショーを披露する一座のキャラバンが到着して賑わう場面に使われている、ダンスのステップの曲だと知りました。3 分程度の動画を見ることができます。

重奏の終盤、突然ゆったりした「夏の想いで」、「炭坑節」の一節が流れて意表を突かれたけれど、二人の編曲によるアイディアは不思議と自然な流れだった。

14 番目は佐藤将さん(音セ・中部金曜教室)。演奏曲は「I Love You」。蛇腹に感情を込めて会場に気持ちの伝わる演奏です。

15 番目は島田彩乃さん(谷口楽器)。演奏曲「Amazon」は女性が乗馬で横向きに乗り姿を意味する言葉です、との紹介でした。そう聞いて聴くと三拍子のワルツのようでもあるけれど、馬が軽やかに駆けているように聞こえてきます。

16 番目の演奏者は千葉健太郎さん(トンボ・松本教室)。アコ歴 10 年になるけれど、まだまだ出来ないところがいっぱいあると紹介され、演奏曲は「Isu't She Lovely」。

このグループの最後 17 番目の演奏者は大木和香奈さん(イケベ・千葉コース)。保育士なので子どもたちの中で弾けるようにレパートリーを増や

したいと紹介され、演奏曲は「Piece dans le stayle ancien」。

・・・10 分間換気休憩・・・

4 つ目のグループの最初は 18 番目の満武直人さん(東京アコ愛好会)、ハイキング風の装いで演奏曲は「山の人気者」。素敵な編曲で、会場には高原の風がながれていました。

19 番目の演奏者は高岡文子さん(トンボ・松本教室)、楽器が重くて苦闘しているけれどいろんな曲にチャレンジしたいと紹介されて弾いた曲は「チャルダッシュ」。

20 番目は練習量も少し減ったけれど久しぶりのステージを楽しみたいと紹介された田代直人さん(フリー)。演奏曲は「Oliver Blossoms」。リズムに乗った素敵な演奏です。高音域から低音域へすると流れるように降りてくるフレーズがきれいです。

このグループの最後 21 番目は Luann によるアンサンブルで、演奏曲は「Romanian folk dances」。メンバーは、千葉薫(acc.)、Secky McClusky(acc.)、平田陽子(Vn.)、管幸美(Fl.)の皆さんです。

・・・10 分の換気休憩・・・

5 つ目のグループの最初(22 番)の演奏者は山田太祥さん(音セ・森教室)。演奏曲は「BELLA NOTTE」(ベラ・ノッテ)この曲はディズニーのワンワン物語の中で流れる曲と紹介されていたので、帰宅後ネットで調べてみました。

YouTube で見たら、アコーディオンとマンドリンだろうか、レディーとトランプがパスタを食べるシーンで流れていました。筆者も幼少の頃見ていたはずだけでもすっかり記憶がなくなっていました。皆さんの演奏からいろいろ教えられます。演奏者はボタンアコに持ち替えて初めてのステージだそうです。

23 番目の演奏者は佐藤良輔さん(イケベ・千葉コース)。アコーディオンを習い始めたのは 2018 年と紹介され、演奏曲は「ミュゼットの女王(オリジナルオープニング『水流のプレリュード』付き)」

24 番目の演奏者は村上一郎さん(東京アコ研)この夏祭りで演奏する側は初めてと紹介され、演奏曲は「帰ってきたツバメ」。持ち曲にしたいとおっしゃっていました。

25 番目は 2 ヶ月前にやっと両手で弾けるようになったと紹介された梅村遙さん(イケベ・千葉コース)。演奏曲は「アメリのワルツ」。

26 番目は四国、愛媛県から参加と紹介された山地真理さん(檜山教室)。4 年ぶり 2 回目の出場だそうです。演奏曲は「Triunfal」(勝利)とても力強くしっかりした音で客席はぐいぐい引き込まれていく演奏です。

27 番目は、3 年ぶりのステージでとても嬉しい、楽しく演奏したいと紹介された石井美緒さん(平山教室)。暗譜で立奏が基本の平山教室で学ばれていて、演奏の形態がしっかりできあがっているようにみえます。膝でリズムをとるくらいで演奏できるのは、背筋、腹筋、が柔らかく強靱なんだろうかと感心します。演奏曲は「Jolly Caballero」です。結構テンポの速い曲だけれど安定した演奏です。

一般の演奏の最後 28 番目は渡邊道子さん(トンボ・松本教室)。演奏曲は「EL CHOCLO」この曲をどんなイメージで弾けば良いかずっと悩んでいたといいます。足でリズムをとりながら切れの良い素敵な演奏です。

・・・15 分換気休憩・・・

ゲスト演奏者は水谷風太さん。(紹介をプログラムから転記)

・2009 年生まれ。

4 歳でアコーディオンを始める。大田智美先生に師事。

2017 年 関東アコーディオン演奏交流会コンクール ジュニアの部 第一位

JAA 国際アコーディオンコンクール小学生低学年の部 第一位

2018 年 アートディレクター森本千絵映像作品「ヒトキ」アコーディオン演奏担当

2019 年 関東アコーディオン演奏交流会コンクール ジュニアの部 第一位

2021 年 関東アコーディオン演奏交流会コンクール 一般上級の部 第一位

PIF カステルフィダルド国際アコーディオンコンクール 12 歳以下の部門第一位

CMA トロフィーモンディアル国際アコーディオンコンクール 12 歳以下の部門第一位

2022 年 東京都教育委員会より表彰

台東区文化スポーツ奨励賞を受賞。

先生の影響を受けクラシックアコーディオン奏者

を目指している。

演奏は最初に 1 曲、その後「一生懸命弾くので聴いて下さい」と 2 曲続けて演奏。3 曲ともクラシックではあるけれど曲名もわからず感心して聴いていました。

とてもきれいな演奏だったり力強い演奏だったり、3 曲目のミツバチの羽音のようなシェイクはよくコントロールできるなど本当に感心しました。

会場の人たちはきっともっともっと聴きたかったと思うけれど、中学 1 年生ということで主宰者も会場の皆さんも配慮されたのでしょうか、15 分程で今後を楽しみに終了となりました。

終了後、司会者が本当に中学1年生ですか？と改めて質問する場面も、幼い頃、おもちゃとか電気製品とかいろいろなスイッチを押すのが好きで、ボタンアコのアコーディオンに興味を持たれたと、お母様から聞いたきっかけを紹介されて、風太さんは「はい」と答えていました。最後に「上手に演奏するために日頃気をつけていることはありますか」との質問には「アコーディオンの練習は長時間すると疲れるので休みながら練習している」と答えていました。(拍手)

この後、ステージ上で出場者とスタッフの集合記念写真を撮影して終了となりました。(シャッターを押す数秒間はマスクを外しました)



写真は、主催者の了解をいただき使用させていただきました。

石井美緒さん(27 番)が紹介の中でおっしゃっていたけれど、フリーの方もいれば、いろんな所属団体から出場されているということは、いろいろな講師の元で練習されている方たちに会え、いろいろなジャンルの曲に出会える良さがあるわけで、それが JAPC アコーディオン夏祭りの良さといえると思います。

今回も初めて聴く曲がたくさんありました。また、懐かしい方たちの元気な姿を拝見することも嬉しい、楽しい夏祭りでした。(記:乙津)

第 40 回みんなで作った平和公園 みんなでつくろうコンサート 2022
2022 年 7 月 17 日 (日) 開演：17：00 会場：中原平和公園野外音楽堂 (川崎市)

かつて米軍基地だったこの地が、粘り強い市民運動によって平和公園に生まれ変わって 40 年になります。公園内の野外音楽堂でのコンサートは 3 年ぶりですが、40 回になりました。会場は筆者の地元でもあり、途中からですが、鶴見アコーディオンクラブ、横浜アコーディオン愛好会、音楽センター南部教室 (川崎市) の三団体有志で神奈川合同をつくり、アコーディオン合奏で参加してきました。3 年ぶりとなる今年は、合同での練習ができなかったもので、それぞれ単独の団体として参加することになりました。平和コンサートの特徴として、合唱団が多く最後にアピール案を宣言して終わりますが、今年は、感染者が出て急遽辞退されるケースもあり出場団体は少なかった。その中でアコーディオンの関わった部分を紹介します。

トランペット二重奏によるオープニングファンファーレ「原爆許すまじ」の後、最初の演奏は、横浜アコーディオン愛好会による合奏、演奏曲は「サウンド・オブ・ミュージック」、「ラデツキーマーチ」の 2 曲。



次の 2 番目 (国鉄横浜うたう会/男声合唱) に内田與明さんが伴奏で出場 (横浜を中心に活躍していて毎回参加している)。



3 番目の (ちゅらリンク/沖縄民謡&ポップス) に横浜アコーディオン愛好会所属の佐藤優美子さんが出場。演奏曲は「チョンチョンキジムナー」、「島唄」の 2 曲。



筆者の所属する音楽センター南部教室は 11 番目で、演奏曲は「オー・シャンゼリゼ」、「芭蕉布」の 2 曲。(指揮: 森陽介) 客席から芭蕉布の歌声が聞こえてきて、指揮者も背中から聞こえてくる歌声にとっても良い経験だったと話していました。



続く 12 番目 (GG's/ジージーズ) に上田祐子さん (横浜アコーディオン愛好会/神奈川合唱団所属) が出場。演奏曲は「ダニーボーイ」、「海に訊け! 山に訊け! 島人に訊け!」の 2 曲。(黄色いシャツとブルーのシャツと、ウクライナの国旗の色で考えたけれども、間に合わなかったのでアコーディオンにバンダナを付けて演奏しますとコメント。アコーディオンの上田さんは、神奈川合唱団でも出場していました。



マイクは 1 団体終わるごとにアルコール消毒をしていました。客席でのマスク着用はお願いされていたけれど、舞台上は各団体の判断でいろいろでした。(記: 乙津)

行ってきました♪

第 12 回 さわやか高原コンサート in 戸隠
「大田 智美・中山 英雄

アコーディオンライブ」

7 月 9 日 (土)

東京から車で3時間半、涼しくて自然いっぱいの戸隠(長野)へ着きました。おいしい夕食をいただいた後、夜 7 時からコンサートが始まりました。会場は他県からのお客様もいて満席でした。



プログラム

《大田 智美 ソロ》

- ・ J・S バッハ：2 声 のインベンションより
- ・ D・ショスタコーヴィチ：ジャズ組曲 第 2 番 より「ワルツ 第 2 番」
- ・ M・モノー：愛の讃歌 (編曲：中山 英雄)
- ◆「ロンド風のミュゼット」
- ◆グリーク「抒情小曲集」より「農夫の歌」
- ◆S.V.P

《中山 英雄 ソロ》

- ・ J・S バッハ：メヌエット ト長調
- ・ ベートーベン：メヌエット ト長調
- ・ ウクライナ民謡：広きドニエプルの嵐
- ・ M・オギンスキー：祖国よさらば
- ・ アメリカ民謡：コロラドの月

《大田 智美 × 中山 英雄 デュオ》

- ・ J・ブラームス：子守歌 / ワルツ作品 39-15
- ・ ボロディン：交響詩 中央アジアの草原にて
- ・ エルヴィン：奥様お手をどうぞ(タンゴ)
- ・ ロドリゲス：ラ クンパルシータ
- ・ チャイコフスキー：アンダンテ カンタービレ

💖 アンコール

男 はつらいよ

❀大田先生の素晴らしい演奏に聞きほれ、幸せだなーとうっとりし、次は中山先生のソロを待っていると、急に中山先生の演奏までに時間が出来てしまい、つなぎに、大田先生が①「ロンド風のミュゼット」②グリーグ「抒情小曲集」より「農夫の歌」③S.V.P を演奏しました。急な演奏なのに、すべて暗譜で見事に演奏なさった姿に「すごい！プロはどんな時でも、暗譜で何曲も演奏する力があるんだ！」と「プロ魂」を見た思いでした。アコーディオンの歴史やバンドネオンとアコーディオンの違いなどの説明もわかりやすく楽しめました。

❀中山先生のソロは圧巻でした。演奏曲も、ウクライナの人々に心を寄せた「広きドニエプルの嵐」、祖国を離れて避難している人々への思い「祖国よ さらば」と、このご時世に聞くと胸がかきむしられるような選曲でした。

88 歳のお歳で、全力で演奏しているお姿を目の当たりにし、平和への願い、音楽への思い、アコーディオンへの愛などをしっかり引き継がなければと、心が引き締まる思いでした。会場の全員に「広きドニエプルの嵐」の楽譜と歌詞が書いた紙が配られました。

❀デュオは息もぴったりで楽しく聞けました。アンコール曲「男はつらいよ」で、ほのぼのとした空気間で締めくくりでした。

コンサートの後で、フランスで修行したシェフ手作りのケーキとコーヒーがふるまわれ、至福のひと時でした。温泉もよかったです。

7 月 10 日 (日)

❀朝食後、午前 9 時からアコーディオン基礎講と公開レッスンが行われました。東京から 3 人、長野から 3 人、あとオーナーの糸賀さんが受講者でした。一人 30 分以内で、大田先生と中山先生のお二人から指導を受けるという、とても恵まれたレッスンです。私がトップバッターで受講しました。皆さんが聞いている中でのレッスンですのでとても緊張しました。



先生方は熱血指導で、手取り足取り指導してくださいました。

私は①蛇腹の返し方 ②指番号を守って練習することの大切さ③表現の違いなどを指導していただきました。

レッスンのまとめに中山先生の指揮で、大田先生と一緒に「白樺」を演奏できたのは、とても嬉しく、今後のレッスンの励みになりました。

❀次々と受講者が指導を受けている様子です。

彼女は難しい箇所は右手と左手を別々に十分練習するようにとアドバイスをもらいました。これは誰にでも当てはまることなので、直に自分への指導でなくても、公開レッスンは、聞いていて、とても勉強になりました。



❀どの音色がよいかスイッチの調整をしている場面です。アコーディオンは本当にいろんな音色が出せる魔法の楽器だなと妙に感心してしまいました。彼女の素敵な演奏がさらに素敵になりました。

❀紙面の都合上、全部の公開レッスンの様子は書けませんでした。9日のコンサートだけ聞いて、10日の公開レッスンを受けなかった友達は、「私も公開レッスンを受ければよかったな。」と言っていました。この一言が、実り多い、そして楽しかった二日間を言い表しているかと思います。

帰りにおいしい戸隠そばを食べて、5人の「おばアコニスト」達は帰路に着きました。大田先生、中山先生、光子さん、糸賀さん、その他多くの皆さんありがとうございました。

（記：石橋友子）



ロッジ・アコールド
ホームページより転記